

- 気候変動への対応
- 製品の価値および信頼性の向上
- 製品・化学物質の安全確保



研究開発統括取締役メッセージ

取締役 兼 専務執行役員 笠原 郁

当社では、事業戦略のロードマップにおいて目指すべき分野として「電子・情報」「モビリティ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」を設定しており、この5分野に向けて新製品を開発してまいります。中期経営計画「SPEED25/30」では、先端電子デバイス用材料、環境対応型の染料およびポリオール、バイオ医薬用材料、環境重視型の農業資材を具体的な事業領域として、2050年の社会を想定し、そこに向けて2030年がどのような姿になるかを見極めつつ柔軟な発想で、研究・開発を進めてまいります。

基本方針

10年間のシナリオ「2030年度のありたい姿」、中間点としての「2025年度までの目指す姿」を策定いたしました。中間点の2025年度までは、有機ELなどの重要施策を実行しつつ、現在の事業領域の維持・拡大と新たな領域への発展・展開を目指します。その実現に向け、常に多様化する社会ニーズをいち早く捉え、さまざまなお客様の異なるニーズに即応できる研究・開発を進めてまいります。

保土谷化学グループは、長い歴史で培った技術から生まれたスキル・ノウハウを形にすることで、より新しい機能を備えた製品や製造技術を開発し、「スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業」の実現に向けた研究開発を行い、スペシャリティ

製品の創出を通してイノベーションを促進し、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に寄与してまいります。

研究開発費



中期経営計画の進捗

「SPEED25/30」における基本戦略

戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

- 機能性色素材料の新製品創出と発展
- 新規研究テーマの開発ステージへの進展・育成

研究開発体制の強化

- 新規研究テーマの持続的な創出活動を展開
- 研究から、量産化のスピーディーな実現を可能とする組織体制の整備

戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

これまで100年以上の歴史の中で積み上げた技術を土台に、中期経営計画「SPEED25/30」では、戦略製品の拡大と発展を目指してまいります。

また、次世代の新事業の創出に向けては、「新規テーマ

探索プロジェクト」を中心に「電子・情報」「モビリティ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」をキーワードに、長期的視野に立った研究開発戦略の構築のため調査・探索し、顧客ニーズを開発・生産・販売が三位一体となって吸い上げ、その実現を目指して

まいります。新たに再編した、有機・光デバイス材料事業部とも連携し、「電子・情報」分野での活動を強化し、「ライフサイエンス」では、バイオ分野の拡充を目指してまいります。

また、産官学との共同の枠組みも積極的に推進し、次世代の基盤技術の構築・新事業の創出を図っております。

研究開発体制の強化

保土谷化学グループは、国内から海外までグローバルな研究開発体制で、将来を担う最先端の研究開発を進めてまいります。

国内拠点の筑波研究所を中心に、各工場の開発部および韓国のグループ会社のSFC CO., LTD.やHODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.が連携して研究開発を推進し、お客様に密着した活動により、お客様の要望にもスピーディーな対応を図っております。

知的財産戦略の推進

将来の事業ポートフォリオを考慮し、研究開発成果に基づく迅速な知的財産権の出願および権利化を推進しております。現在、情報検索、特許解析に基づく、パテントマップの利用や知財教育等により、特許の質の向上にも注力しております。今後も、グローバルな事業展開への対応のため、国内外での確実な権利化を目指してまいります。

SFCバイオ棟新設

SFC CO., LTD.(本社：韓国、以下、SFC)は、バイオ事業のさらなる拡大を目的として、韓国・忠清北道清州梧倉に、本社機能を含む、R&Dと生産設備を有したバイオ棟の建設を進めております。

SFCが提供する「診断用オリゴ製品(PCR診断キット用材料)」は、複数の新型コロナウイルス感染症用のPCR診断キットに採用され、販売を拡大してまいりました。SFCが開発・製造・販売する「診断用オリゴ製品」は、将来的に、「製薬用オリゴ分野」へシフトしながら拡大していくことを見込んでおります。具体的には、診断用オリゴ製品の開発・製造で培った技術を応用し、次世代医薬品である「核酸医薬分野」の製品を製造していくことを目標としております。

製薬用オリゴ(核酸医薬)の市場は、世界的に拡大していくことが予想され、有機EL事業に次ぐ第2の柱として、保土谷化学グループの成長に寄与するように育成していく考えです。



VOICE 知的財産の権利化を着実に実現することで、事業発展に貢献

知的財産室では、開発した技術や製品、ブランドが自社の利益となるよう、出願手続きや権利化業務を主に行っています。私の担当分野は特許実務と商標実務ですが、特許実務では社内の新しい技術や製品に触れることができ、商標実務では上市に向けた製品名の選定に関わることができます。これから世に出ていく製品の準備段階に携わることはプレッシャーもありますが、やりがいを感じています。また、知財部門では、技術部門、事業部門、さらに特許事務所など社内外の関係者と調整する機会も多いため、技術的な知識や法律の知識だけでなく、コミュニケーション能力も求められます。そのため、専門的な法律の制度や専門技術を分かりやすく説明することを日々心がけています。特許や商標の権利取得は簡単ではないことが多いですが、権利化を実現して事業発展に貢献していけるよう努力したいと思っております。



研究開発部 鳥谷 真理

